

く

曇りなき 心に残る
王陽明

朱子の学問を勉強されていた藤樹先生は、実行するには無理があり、かた苦しう思われた。次第に疑問を持たれていた頃に「陽明全集」に出会い、自分が考えていた通りのことが書かれているのに驚き、深い感銘を受けて、陽明学へと進まれた。



や

山を越え 工夫を重ねて
良知に致る

朱子学から始めて、陽明学へと長い間の苦学、独学を続けられた藤樹先生は、人間として大事なことは、人間本来の姿にかえり着くこと、すなわち誰でも良知という美しいを持っているので、この良知を磨き、良知の教え通りにする生き方、それが良知に致ることだと見つけられた。



ま

毎朝に 門人たちと
読む「孝経」

門人たちと勉強を始める前に、毎朝、必ず「孝経」(中国の本、五経の中の一つ)を読み上げ、勉強の心構えとされた。「孝経」のはじめに「孝とは徳の本なり」と書いてあり、孝行が徳の根本であると教えているので、この大きな孝行を藤樹先生は身をもって実行された。



け

今朝もまた 熊沢蕃山
門の前

熊沢蕃山が、心から尊敬できる本当の先生について勉強したいと探していた矢先に、京都で正直馬方又左衛門の話聞いた。これに深く感動した蕃山は、藤樹先生を小川村に訪ね、弟子にしてほしいと二日間も門前に座り込み、ついに許された。



ふ

故郷へ 帰る心に
曇りなし

生まれ故郷の小川村に、年老いた母が一人で暮らしていることを、藤樹先生は日夜心配されていた。そこで、母のもとへ帰って孝養を尽くしたいからと、早くから大洲藩に辞職の願いを出されていたが、聞き入れられなかったため、しかたなく先生は大洲から逃げて帰られた。全てを捨てて命がけで故郷の母のもとへ帰る先生の心には、一片の曇りもなかった。



こ

根気よく 教えた了佐は
医者になる

大洲にいる頃、物覚えが決して良いとは言えない大野了佐の熱心な願いに心を打たれ、藤樹先生は、了佐のために自ら医学の本の説明書を書き、大変な苦勞を続けて了佐に医学を教えられた。そして、ついに了佐は一人前の医者になった。



藤樹かるた制作委員会委員
足立清勝・飯田典子・石黒紀代子・
北川暢子・清川貞治・高谷美智子・
山本義雄 (五十音順)